

“次回の関節教室@豊中市岡町(3/12)”

きたる3月12日、土曜日午後2時から豊中市の阪急岡町駅から徒歩数分の商工会議所にて、公開市民講座を行うことが決まりました。

今回の講演会は、股関節の病気と治療を当センター長相原雅治が、当院の現状とアメリカの人工関節の現状報告を岡部長が、膝の病気と治療を豊中渡辺病院・整形外科部長の渡邊哲先生が分かりやすくお話しをします。

詳細は、近日中にチラシを作成しますので、そちらでご確認ください。

日時：平成23年3月12日 土曜日 14時開場
14時半開演 16時終了予定

場所：豊中商工会議所

〒561-0884 大阪府豊中市岡町北1-1-2

今後、箕面でも腰痛やリハビリに関する講演会を予定していますので、決まり次第ご連絡致します。



センター長の海外探訪記 “カナダの巻”

カナダはアメリカの北側に広がる雄大な自然にいだかれた国です。日本人には意外と思われそうですが、公用語は英語とフランス語で、公共の表記は全て両方の言語で書かれています。(主流は英語ですが・・・)

東にはロッキー山脈が連なり、雪山があるかと思えば、そこから数時間車で走ると砂漠の様な広大な風景が広がるのは、大陸ならではです。食事はアメリカと同様に大味ですが、東海岸にはアジアからの移民が多く、多くの日本食レストランもありますし、海の幸を多く使った中華料理、ベトナムやタイ料理とまるで西洋とは思えないくらいです。高層ビルの立ち並ぶ大都会から1時間も歩くと、ものすごく大きな空が広がり、ロッキー山脈に入ると多くの野生動物にも出会えます。

治安もよく、冬にはオーロラが見える街もありますので、自然が好きな方にはとてもお薦めの国ですよ！



「ぶらな」

“人生を積極的に生きる人を応援する医療情報誌”

人工関節センターを開設後、昨年末までの人工関節手術は220例を超え、相原病院の通算は360例もの経験を積んでおり、近隣の大きな基幹病院よりも多い手術件数を一昨年、昨年と行うことが出来ました。(右下の表をご参照ください)

北摂では人工関節を専門的にこなしている医療機関が少ない中で、これからも人工関節のメリットを理解していただき、痛みから解放されて、新しい人生を踏み出すお手伝いが出来ていることに喜びをおぼえる半面、責任の重さをスタッフ一同痛感しております。今年も我々は皆さんと共に頑張っております！

“MISってどんな手術ですか？”

人工関節手術は日本で年間に膝が約6万例、股関節で約4万例が行われています。今回は最近メディアでも取り上げられてる、小さな傷で手術が可能なMIS(低侵襲手術)に関して簡単に説明します。



4,5年前からテレビ、インターネットや雑誌などで取り上げられるようになったMIS(最小侵襲もしくは低侵襲の略)ですが、実は、身体の中に入る人工関節その物は、それまでの物と全く変わりません。あくまで手術をする時に使う器械が大幅に改良されて、小さな傷でも手術が行いやすくなった事と、人工関節を専門に行う医者が増えて視野が悪く中でも正確な手術が行える様になった事が基本にあり、その上で今までよりも切開する筋肉や靭帯などの組織を傷めない様に手術を行う方法が色々と開発されました。

導入当初は、使用器械の特殊性や視野の悪さの問題もあり、日本では許可されていない献体を使用しての手術訓練を限られた医師のみが海外で研修を行いました(我々もアメリカやタイで研修を受けました)。

しかし、現在は我々の様に導入当初に経験を積んだ専門医が後輩を教育してきた事と、以前に比べて傷の小ささにこだわるより、正確な手術を行える傷の大きさで安全に手術を行う傾向が強くなり、必ずしも特殊な手術方法では無くなりつつありますが、正確な手術と少ない合併症に加え、適切なりハビリを行い早期の社会復帰を目指すためのMISを行うには、やはり人工関節を専門とする整形外科医とそのチームが手術件数の多い施設で行うべき手術だと考えられています。

相原病院・人工関節センター新聞
第五号

2011年1月吉日



近隣病院の
人工関節手術数
(平成21年度)

病院名	症例数
相原病院(H22年)	136
(H21年度)	98
箕面市立病院	35
ガラシア病院	94
市立豊中病院	80
国立刀根山病院	42
市立池田病院	61
市立川西病院	34
市立伊丹病院	201
済生会千里病院	48
近畿中央病院	40
宝塚市立病院	16
豊中若葉会病院	19

人工関節に特化した「人工関節センター」と乳がん診療に特化した「プレストセンター」を開設しており、より高度な専門医療を提供しております。

- 関節外来：岡 史朗 月・火・水曜午前9時から12時
- 関節外来：相原雅治 水・木・金曜午前9時から12時
- 脊椎外来：加藤泰司 毎週火曜 午後4時半から7時
- 理学療法士：岡本浩明・吉村淳子
- 診察時間：平日午前9時から12時、午後4時半から7時
(水曜夜診休診)

土曜午前9時から12時 (祝日休診)
相原病院・人工関節センター tel. 072-723-9000
箕面市牧落3-4-30 fax. 072-723-9052
ホームページ: <http://www.aiharahp.com/>

この新聞の名称「ぶらな」とは、仏教の元言語となるサンスクリット語で“空気”や“清浄な気”を示す言葉です。我々は、関節や脊椎疾患に負けずに積極的に人生を楽しんでいきたい！と考えている“強い気”を持っている方々を応援する為に、色々な形で情報を発信していこうと考えています。

こんな情報が欲しい、こんな事をして欲しいなど希望がありましたら、お気軽にファックスでお伝えください。



医療法人 啓明会
相原病院
Provides the best medical service

“海外人工関節手術研修(アメリカ)に参加して来ました” 整形外科部長 岡 史朗

関係各様の御協力により少しの間お休みを頂きまして、平成22年11月7日より11月12日までの間、人工関節の聖地？Warsaw（ワルソー）を訪れ研修を行ってきました。その後セントルイスに足を延ばし手術見学、実習を経験しました。

訪米にあたり、ワルソーがどこにあるのか？というところからスタートしたわけですが、Warsawで検索すると見事に、ポーランドの首都ワルシャワしか出てこないんですね・・・そう綴りが同じということを知ることになったわけです。ポーランド移民から始まった町？果たして・・・

出発もさし迫った10月のある日、担当者からそろそろ出発準備の方を・・・と言われ、自宅を掘り返して見つけ出したパスポートが・・・期限切れ・・・何とか代理申請をしてもらい、ギリギリで新パスポートをゲット、ヤバかった・・・。

ともかくにも飛び乗った、シカゴ、オヘア空港行きJAL便は半日以上かかって到着、時差の関係で前日の午前前に逆戻りし、更に入国審査で一悶着もあり(ワルソー？どこ？何しに行く？観光？そんなわけねーだろ？等々)しどろもどろになりながらツアー開始。

日本各地から集まった精鋭？整形外科医5名が快晴に恵まれたシカゴに降り立つ！移動は運転手付きのバンが主体です。シカゴからワルソーまでは大まかに言って大阪から静岡ぐらいの距離です。しかしこのバン、凄いペイントです。格好いいのか悪いのか・・・

到着当日は基本、移動日ですので、カジュアルな食事を済ませ、ワルソーのホテル着後はフリータイム。フリータイムですが噂に聞いていた通り、本当に何にもありません。畑と湖と民家と道路と大型スーパーしかありません。いや、マジで。入国審査官の言う意味がよくわかりました。絶対にビジネスと答えるべき街です。

道路には歩道すらなく、車社会を痛感します。もちろん日本人など、どこにも見当たりません。

そんなこんなですが、翌日からはきっちりミッションをこなします。ここワルソーには何故だか世界を代表する人工関節メーカーが集結しているので、それに関連する施設もあり、我々の目的の1つであるキャダバートレーニング、つまり**献体(の一部)**を使った模擬手術訓練もここで実践することができます。心臓の弱い方のことも考慮致しまして詳しくは割愛しますが、これは大変有意義な研修で随分勉強になりました。ワルソーではその他、症例検討会を行ったり、実際の人工関節パーツを製造する工場内見学などもさせてもらい、これも大きな収穫の1つでした。

いやー、人工関節って、結構手作りなのね・・・



ワルソーでの2日間の研修はそのようにして過ぎ、翌日はセントルイスに移動です。セントルイス！なんという言葉の響き感でしょう。早速インターネットで調べます。えーっと、**全米有数の犯罪都市**・・・単位人口あたりの殺人事件発生率がニューヨークの6倍以上、だそうです・・・大人しく就寝しますとも、ええ。

翌日は早朝から現地の人工関節センターを訪問しました。彼らは結構早起きで早朝から精力的に仕事をこなします。ここでの我々のミッションは手術実習と担当術者による講義及びディスカッションです。

今回お世話になるシュロアー医師は人工膝関節のスペシャリストで、年間300例以上の人工関節手術をここでを行っています。その日の手術予定は5例で手術室2部屋を交互に移動しながら、どんどん手術が進みます。2例ぐらいやって**結構頑張った感がある**ようではまだまだなんだと痛感しました。1人1例ずつ手洗いし手術に入ることも許可してもらい、間近にドクターから手術手技についてアドバイスをもらい、実習することができました。

ここではスタッフ各々が高い専門性とプロ意識をもって手術にあたることや役割分担、相互協力の工夫など、どのようにすれば短時間に効率よくかつ正確に手術がなされるのか、大いに学ぶべきことがありました。それと同時に、**手術手技自体は日米で特に大きな隔たりはなく**、我々が現在行っていることを自信を持ってやっていけばよいとも感じられました。

朝から始まった5例の手術が何と午後2時過ぎには終了し、ちょっと遅めの昼食を摂りながらシュロアー先生のレクチャーを聴きディスカッションの後、日米の手術やリハビリや入院事情の差異などを語り合っているうちに、あつという間に時間が過ぎここでタイムアップ、名残惜しいですがセントルイスを去る時間が来てしまいました。急ぎ再びシカゴを目指します。これにてミッション終了、すべての研修が終わり、あとは帰国するばかりとなりました。

最後の夜、シカゴの摩天楼の夜景だけは何としてみえたかったので、ハンコック・センターの最上階(地上100階の超高層ビル)に上がり、記念の写真をカメラに収めておきました。ここが一番いい？とか。

翌日早朝起床でどこに立ち寄るでもなく、帰国の途につきました。出国するのにベルトを抜いて、靴まで**脱ぐのね**・・・最後になりましたが、実質現地4日間の研修期間、どこの馬の骨ともわからない日本人の集団を終始歓待して下さいました現地のスタッフの皆様、このような機会を与えて下さった関係者の皆様に深く感謝を申し上げ、この稿を終えたいと思います。



あと、個人的に**マット・マートン**には謝りたいと思います。詳しくは昨年1月号コラム参照。